

旅順の桜探訪

(1) 龍王塘桜花園



わたしは、中国に住むこと10年あまり。ホームシックに罹ることもなく中国生活を楽しんでいるが、桜の季節だけは例外で、日本の花だよりを聞くと心が騒ぐ。

世の中に 絶えて桜のなかりせば 春の心は のどけからまし（在原業平）

If there were no cherry blossoms in this world, my heart in spring should be calmer.

ほどではないが、今春も中国の桜をもとめて旅順へでかけた。まず、最初に行ったのが、大連市内から車で小一時間のところにある「龍王塘桜花園」であった。



同行した7人の仲間は、日本人、モンゴル人、韓国人と国際色豊かであった。



ここは、日本人が戦前に造ったダム（水库）に付属する桜園だそうだ。ソメイヨシノはほぼ散っており、八重桜など山桜系の花が咲いていた。

敷島の 大和心を 人間ほぼ 朝日に匂ふ 山桜花（本居宣長）

If I am asked about the meaning of 大和心(Japanese mind), I will answer it is the blossoms of 山桜 (mountain cherry trees) shining in the rising sun.

江戸末期に品種改良で生まれたソメイヨシノは美しいので世界中に広まった。だから、桜が日本原産だと誤解している人がいる。が、桜はヒマラヤ山麓が原産地で、長い年月をかけて東進して中国には雲南省に伝わった。雲南には今でも桜の原種が多種ある。その後、北上して日本に伝わった。在原業平や本居宣長の時代には、ソメイヨシノはまだなく彼らが愛した桜は素朴な山桜系だった。



桃の花はサクラに劣らぬ、むしろ華やかな印象を与える。陶淵明が伝える桃源郷、人知れず山里の奥深く、そんな理想郷がありそうなイメージを桃の花は与えてくれる。「桃から生まれた桃太郎」の伝説にもそんなものの一つか？

本日4月30日は、5月8日までのゴールデンウィークの初日。我々は旅行社が企画した桜観光ツアーに参加した。入園料20元（350円）込の参加料は40元だった。



龍王塘貯水ダムを望む



龍王塘貯水ダム上を歩く

貯水ダム（水库）

【下の名前について】日中韓の間では漢字が共通しているので、名前は発音が違っていてもそのまま使える。漢字圏以外の人の名前は、中国では発音に即して漢字が宛てられる。



私と三輪さんは留学生活三年目、申さんは留学生活五年のベテラン、齋藤さんは設備関係の会社から派遣されて中国で仕事をした経験があるが、当大学への留学ははじめて。アムラさんは昨年中国語の留学生だったが、今は旅順にある当大学の経営管理学院の本科生。ウガンチチクさんは夫と共に語学留学、一歳の孫を連れてきた母とともに桜見物に参加。

日本の人口が中国の人口 13 億人の 1/10 と少ないのに、モンゴル共和国の人口（300 万人）とくらべるととても多いのにアムラさんが驚いている。広大な草原の国と較べて、日本の国土はちっぽけなのに…。

日本に留学したことのある申さんは、朝鮮語と日本語の文法構造が似ていることを指摘すると、アムラさんがモンゴル語も同様だといった。

「私が日本へ行く。」〈主語＋目的語・補語＋**述語**〉に対して、中国語や英語は、「我去日本。/I go to Japan.」〈主語＋**述語**＋目的語・補語〉のように文法構造が異なると、日本人はこれらの言語の習得が難しい。モンゴル人・朝鮮人・日本人が〈アルタイ諸言語〉として共通性のあることは興味深いことだ。私が中国の大学で日本語教師をしていたときの経験で、漢族より朝鮮族の方が日本語の習得が早いことは、このような言語構造の異同によることは明らかである。

桜の樹の下で宴会をするのは日本人特有の風習だが、三カ国人が和やかに交流できた。私はこれまで英語で外国人と交流した経験があったが、中国語を共通の言語として交流した経験はほとんど無い。

第七回大連国際桜花節

(2) 旅順203桜花園

「第7回中国大連（旅順）国際桜祭」が、旅順「203 桜園」で5月15日まで開かれる。同園には28種類、約5000本の桜が植えられ、中国や日本の桜を中心に世界各地の桜が観賞できることから、毎年、国際桜祭が開催されている。今年のテーマは「爛漫の桜、その美、旅順を酔わす」。会場では各種イベントや割引特典なども行われ、花見シーズンには大勢の来場者でにぎわっている。

園内には大型駐車場や遊歩道、休憩所なども整備されるなど、花見シーズンが終わっても瑞々しい新緑の園内散歩が楽しめる。

以上の案内を薛（^{シュエ}Xue セツ）さんがインターネットで見つけた。彼女は我が大学の隣にある遼寧師範大英語科の三年生で、日本語と中国語の勉強会を私と二人で始めてもう一年になる。

桜は何度見てもいいという思いだけでなく、今回の桜花園は、日露戦争の激戦地203高地の麓にあることがいっそう私には心惹かれるものがあった。もちろん、可愛い女学生の薛さんが誘ってくれるのだから断る理由などあるはずもない。バスとタクシーを乗り継いでの旅程だが、薛さんが同行してくれるので安心だった。下にその詳細を地図で示す。



旅順のバスターミナルからタクシー（20元）で桜花園に行った。実は、二年前大連に来た時に旅順の日露戦争にまつわる地（203高地、水帥營、東鶏冠山）を四人の学友と訪ねたことがある。その時の203高地への入山口と今回の桜花園の入り口と同じだったかどうか記憶に定かではない。入園料は30元（約500円）だが、私は70歳以上なので無料、薛さんは学割で半額だっ

た。タクシーの運転手の話では、4月30日と5月1日にはかなりの人出だったそうだが、この日は人がまばらだった（私や薛さんの学校は8日まで連休だが、一般の会社では今日は出勤日なのだろう）。龍王塘桜園と同様にソメイヨシノは散り去ったらしく、赤みがあった花びらと葉が混在している山桜系の桜が咲いていた。



園内の舗装された道を進むと、桜園の向こうに203高地が見えてきた（下左図）。私が今見ているところは、旅順港側（つまり南側）なので、日露戦争で乃木軍は山の向こう側から頂上を攻撃したと思われる。あの頂上を目指してアスファルトで整備されている坂道を歩くことにした。



[山頂に日露双方の大砲が記念に据えつけてある。乃木將軍の漢詩「爾靈山（二〇三）」にちなむ慰霊塔を再訪した](#) 今回はじめて知ったが、案内版に「軍国主義者乃木とその象徴としての慰霊塔云々」と酷評してあった。他国の戦場にされた上に、日帝の侵略と支配のはじまりとなったことへの恨みが籠っているようだが、止むを得ないか…

山を下りてきた頃にお昼になり、桜の下で昼食にした。



昼食はサーモンの刺身と巻き寿司

私は日本語教師時代に学生を宿舎に呼んで巻き寿司をふるまい、寿司ファンに換えたことが自慢である。しかし、刺身は好きになれないという学生が多いし、唐辛子の辛い味は平気でも、ワサビには閉口する学生がほとんどだった。薛さんは、例外的にワサビをつけたサーモンの刺身が大好きだ。

若い娘が老人の花見に同行してくれるのは、この餌付け(?)に成功したからだ、と言っては失礼になる。彼女も桜が好きで、私との交流を大切に思っているのだろう。わたしは年齢制限で、もう中国で日本語教師ができなくなったので、彼女が私の唯一で最後の教え子になるだろう。

こうして、今春は二度桜見物ができた。大連の花の季節はまだまだつづき、今月後半には大連の象徴でもある「アカシヤ」の白い花が甘い香りを漂わせて咲き乱れる。(了)

追記：旅順の日露戦争の古戦場を二年前に訪ねたときのレポートは下のURLにあります。ご興味のある方はご覧ください。

<http://mura346.jimdo.com/番外編-大連交通大留学/6-観光旅行/旅順口観光旅行>

